

センターTOPICS

令和6年2月29日

南鳥島国有林の巡視（小笠原総合事務所国有林課）

日本の最東端に位置する南鳥島（マークス島）国有林の巡視を、防衛省の協力を得て実施しました。南鳥島は東京からおよそ1950km南東の海上に浮かぶ孤島で、東京都小笠原村に属し、およそ20名程度が気象観測や国防等のために駐在しています。この小さな島は現在、防衛省、国土交通省および林野庁により管理され、また希少な鳥類の繁殖地として鳥獣保護区に指定されています。

日本国内で唯一太平洋プレート上に位置するこの島の植生は、小笠原諸島と共通したモモタマナやモンパノキ、オオハマボウ、ハマオモトなどの在来種やモクマオウやギンネム、パパイヤ、ホナガソウ、アオノリュウゼツラン、シチヘンゲ（ランタナ）、ココヤシなどの外来種に加え、オーストラリアなど南洋方面を中心に分布するトゲミウドノキが国内で唯一見られます。

外来種対策等については現在実施していませんが、今後もこの小さな島の植生環境の推移を見守っていきます。



ココヤシやモンパノキ、モモタマナ等が亜高木林を形成



モンパノキ等による海岸低木林



トゲミウドノキ (*Pisonia grandis*)



島の東端に建つ日本最東端の碑